

\* 注意 これは問題用紙です。解答用紙は別にあります。解答は必ず解答用紙に書きなさい。  
終了時間がきたら、解答用紙を裏返しにして室外へ出なさい。

〔問題〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（本文には、原文の表記を一部変更したところがある。）

著作権の関係で問題文は掲載できません。

（山本悦子『夜間中学へようこそ』より）

- 問一、…… a r e の漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。
- 問二、—— ①で、「今さら中学校に行きたい」と言い出した理由を、本文中から四十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を、解答欄に合うように答えなさい。
- 問三、—— ②にあてはまる「身体の一部」を表す字を、漢字一字で答えなさい。
- 問四、文章の内容に合うように、③ ④に「入学」「卒業」のいずれか当てはまるものを答えなさい。
- 問五、—— ⑤「なんだ、それ……」と頭を抱えた時のお父さんの気持ちとして適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア お母さんの漢字が読めないという告白に、不安を感じた  
イ 母親の、漢字が読めないという告白に困惑した  
ウ 母親が、学校へ教えるほどこしか行っていないことに怒りを感じた  
エ 子どもが漢字が読めないと言いだしたことに不満を感じた
- 問六、—— ⑥「そうだった」とあるが、「そうだった」とはどうだったということか。本文中から十字程度で抜き出し、解答欄に合うように答えなさい。
- 問七、—— ⑦「お母さんはなにを今さらという顔をした」とあるが、その時のお母さんの気持ちを次から選び、記号で答えなさい。
- ア おばあちゃんが戦争のとき生まれてきたことを知らない娘にあきれている  
イ おばあちゃんが戦争のとき生まれてきたことを娘に教えてこなかった自分を責めている  
ウ おばあちゃんが戦争のとき生まれてきたことに驚く娘に怒りを感じている  
エ 戦争が終わって七十年が経っていることを知らない娘にあきれている
- 問八、—— ⑧「すぐにわかることだった」とあるが、すぐにわかることとは何か。本文中から二十字以内で抜き出し、解答欄に合うように答えなさい。
- 問九、—— ⑨「そういう人」とはどのような人か。本文中の語句を用いて答えなさい。
- 問十、—— ⑩「おばあちゃんのことを気にしていた」とあるが、おじいちゃんが気にしていたことは何か。次から選び、記号で答えなさい。
- ア おじいちゃんが亡くなって、おばあちゃんが悲しみに暮れること  
イ おばあちゃんがひらがなの読み書きしかできないこと  
ウ おばあちゃんが亡くなってしまいうこと  
エ 戦争が終わっておばあちゃんが学校へ行くこと

〔問題二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

## 著作権の関係で問題文は掲載できません。

〔外山滋比古『知的な老い方』より〕

問一、…… a e の漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、—— ①「ガバ」のような語を何と言うか、漢字三字で答えなさい。

問三、—— ②「そういう……こない」とあるが、そのためにどのような対策をしているのか。本文中から連続する二文を抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点を含む)

問四、—— ③「冬でも……ときである」とは、どういうことを言っているのか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 冬は体調がよくないので、五時半になってしまふこと      イ 冬の五時半に起きる時は体調のいい時であること

ウ 冬でも体調の悪い時以外は、五時半前に起きること      エ 冬の四時に起きると体調が悪くなること

問五、—— A「セレモニー」・B「太刀打ち」の本文中における意味を次から選び、記号で答えなさい。

A 厳かな儀式      イ 決まった繰り返し      ウ 訓練      エ 支度(準備)

B ア 張り合って戦う      イ 顔色をうかがう      ウ 歩調を合わせる      エ 相手に任せる

問六、—— ④「ピチピチはり切っている」を言葉を変えて表現しているところがある。その言葉を本文中から八字で抜き出しなさい。

問七、—— ⑤「これ」は何を指しているのか、答えなさい。

問八、—— ⑥「機械的な仕事以外はすべて、朝へまわすことにきめ」たのはなぜか。理由を答えなさい。

問九、—— ⑦「朝飯前の仕事」の一般的な意味を、本文中から九字で抜き出しなさい。

問十、この文章の内容に合致するものを、次から選び記号で答えなさい。

ア 夜更かしが体によくはないことは、時代が変わっても明らかなことだ。

イ 電灯があらわれて、明るい夜が実現したのは、昭和になってからである。

ウ 目覚めてすぐのアイデアを一度やりすこしても、妙案の場合はまた思い出すことがある。

エ 目がさめてもすぐに起きずに考えることが、頭の回転を効率よく動かす一番の秘訣である。

オ 大正から昭和にかけて小説家は夜通し原稿を書くことが当たり前ようになっていた。

〔問題三〕次の問いに答えなさい。

問一、次の古典作品のうち、三大随筆ではないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 枕草子      イ 十訓抄      ウ 方丈記      エ 徒然草

問二、次の古文はある作品の序文である。この作品名を漢字で答えなさい。

祇園精舎の鐘の声      諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色      盛者必衰の理をあらはす

問三、松尾芭蕉により『奥の細道』が執筆されたのは江戸時代であるが、それ以前の時代に作成された作品を次から選び、記号で答えなさい。

ア 南総里見八犬伝      イ 四谷怪談      ウ 好色一代男      エ 源氏物語      オ 東海道中膝栗毛

問四、太宰治の作品として正しいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 雨ニモマケズ      イ 人間失格      ウ 地獄変      エ 斜陽      オ 吾輩は猫である      カ 雪国

問五、次の四字熟語の空欄には共通する漢字が入る。その漢字一字をそれぞれ書きなさい。

①  載一遇・ 差万別・ 客万来      ②  地神明・ 変地異・ 真爛漫      ③  義名分・ 同小異・ 同団結

問六、次の①・②の——部と同じ品詞のものを、後の文の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① あの花は美しく咲いている。

ア あのテストは、非常に解くのが難しい。      エ しかし、対策プリントは配布されていたはずだ。

② 彼はその現場にいたらして。

私は、先輩に頼まいれてこから少し離れたお店まで買い物をに出かけた。